

サケの飼育記録

1



2018年12月17日

シロザケの卵が届きました。

この日のために準備していた涼しい部屋で飼育の開始です。



め 発眼卵 はつがんらん

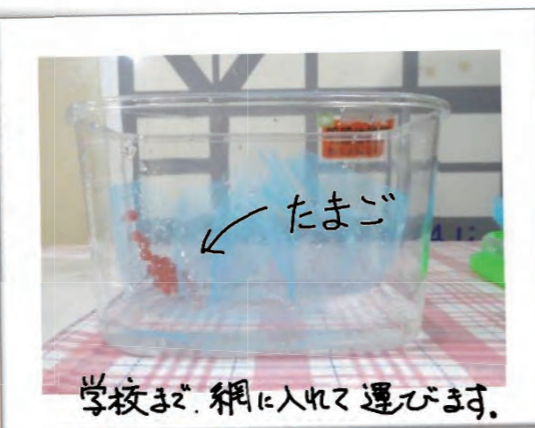


1ヶ月前から水を入れて待ちました。



2018年12月18日

市内の小学校でも育ててくれることになったので、卵を20粒持っていきました。ふ化の予定日は12月末。3月になったら子ども達と一緒に放流します。



学校まで、網に入れて運びます。



そっと水の中に入れます。



この卵はどこからきたの？

この卵は2018年10月に日本海から千歳川に遡上したシロザケの卵です。

まず川に遡上したサケをインディアン水車ですくい上げて、いけすに落とします。

いけすのサケを網で取りだし、



人の手で、オスとメスに分けます。一瞬で見分けて、あっという間に分けていく様子は見事です。2018年は千歳で約14万尾のサケを捕獲したようです。



オスの入り口

メスの入り口



2018年10月30日

私たちが受け取る予定の卵の受精が行われました。(↓ イメージ写真)



↑見分けがつかますか？
上の2尾がオス、
下の1尾がメスです。



メスのお腹から卵を取り出します。



オスの精子を混ぜて水に入れると受精します。

10月30日に受精した卵が、12月1日に発眼卵となりました。(肉眼で黒目を確認できた卵)



受精したばかりの卵は飼育が難しいので、専門の方が育ててくれます。



発眼卵はとても丈夫なので、旭川までの長旅が可能になります。水がなくても乾燥しなければ1日くらい平気です。

旭川では複数の団体が卵をもらうことになっているので、当番を決めて、1団体が代表してみんなの卵を恵庭にある施設に取りに行きます。

卵から孵るまでの期間が長いです...

